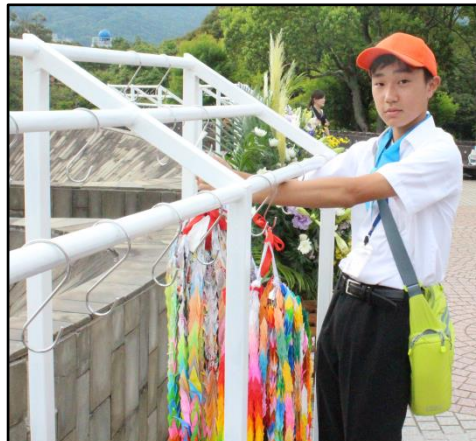


第2日目

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列



千羽鶴の奉納

2日目の朝、私たちは、平和の泉に折り鶴を奉納しました。奉納した折り鶴は、我孫子市民から集まった多くの折り鶴のうちの1つの千羽鶴です。私は奉納の時、我孫子市民の平和への思いを届ける大きな役目だなと感じました。アビスタに展示されている「サダコ鶴」と同じようにどの鶴も1つ1つに「戦争が起きないでほしい」という願いが詰まっていると思いました。



湖北台中学校では、各クラスに90枚ほどの折り紙を配り、全校生徒一人一人が気持ちをこめて折り鶴をつくりました。鶴が千羽全てそろったら、生徒会で一つ一つつないねいにつなぎ合わせる作業をしました。特別支援学級でも一つの千羽鶴を完成させたので、合わせて2つの千羽鶴を奉納してきました。

湖北台中学校 中村 咲希さん



白山中学校  
白杉 快さん



◎派遣中学生からのワンポイント報告

(湖北台中 中村さん)

私たちが奉納した鶴以外にも全国各地からたくさんの千羽鶴が集まっていて、原爆に対する人々の気持ちが感じられました。





久寺家中学校  
佐口 未来さん

式典では、はじめにこの1年間で亡くなられた3,487名の被爆者の方の氏名が記載された死没者名簿が納められました。また、式典に参加している人は、遺族の方もそうですが高齢の方が多く印象を受けました。原爆の被害を受けた方の平均年齢が80歳を超えている中、若い世代が伝えていかねばならないのもっと関心を持ってほしいと思いました。



僕が平和祈念式典で印象に残ったことは「千羽鶴」という曲を合唱したことです。平和への誓いや生命を白や黄色、青色の鶴に折るという歌詞が心に残りました。そして、最後の「未来への希望と夢を虹色の鶴に折る」という歌詞に込められた平和への気持ちに共感しました。



派遣団 団長 湖北中学校早坂 弘宇さん

◎派遣中学生からのワンポイント報告（湖北中 松澤さん）

平和宣言、平和への誓いなどの言葉が心に残りました。特に被爆者の合唱では、歌詞一言一言が当時どれほど辛かったのか、自分達のような被爆者をもう二度と出してはいけないという気持ちが伝わりました。（写真：長崎市HPより）



◎派遣中学生からのワンポイント報告

（布佐中 藤野さん、我孫子中 額賀さん）

被爆者の方だけで作る合唱団と小学生が、平和を祈る歌を歌っていました。長崎市長や総理大臣、国連のキム・ウォンス軍縮上級代表などがお話をされました。11時2分には全員で黙とうをしました。（写真：長崎市HPより）



▲当日の様子





## 青少年ピースフォーラム2日目

～各班に分かれて意見交換～

### 1) 永野悦子さんの被爆体験講話をふりかえって

永野さんのお話は、当時の悲惨な様子を表していました。特に、疎開先から弟と妹を連れて帰ったら、被爆して亡くなってしまったということが印象に残っています。亡くなった身内を、自分達で火葬しなければならないということも、当時の辛く大変な状況を顕著に表していました。本当に貴重なお話を伺うことが出来て、本当によかったです。



#### ◎派遣中学生からのワンポイント報告

みんな永野さんのお話を集中して聞いていました。しっかりとメモもとって、質問タイムの時は、手をあげている人もいました。



### 2) 世界のこども写真でワーク ①避難民の子どもたち（シリア）

写真でワークの1番目では、戦争から身を守るために家族と一緒に避難して、キャンプで不自由な生活を送っているシリアの女の子について、考えました。



シリアで住んでいる女の子は、紛争のために避難してきています。何の罪もない小さい子まで巻き込んでしまう紛争や戦争は、絶対にやってはいけない事だと再実感することができました。小さい子も水をくみに行ったり、洗濯物を手伝っていて、遊ぶ暇もありません。改めて、今自分が生活している環境に感謝をし続けていきたいと思えました。

#### ◎派遣中学生からのワンポイント報告

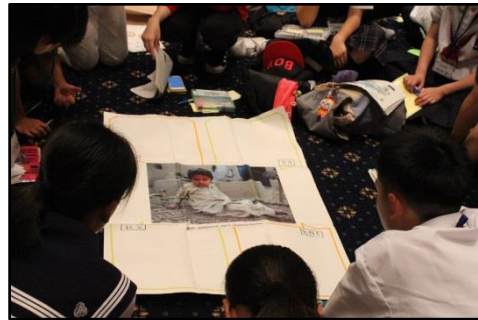
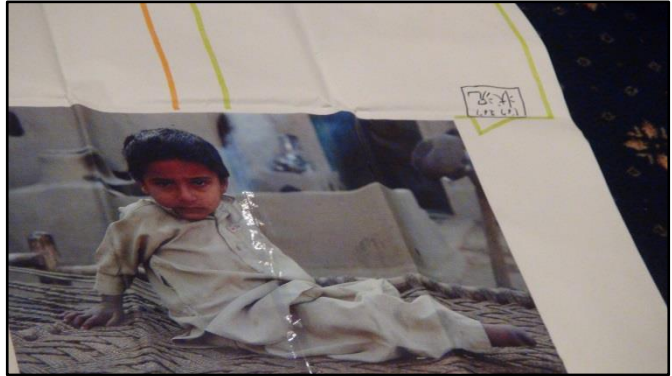
この女の子は、自分が好きな服を着たり好きな食べ物を食べたりすることができずにいて、水汲みなどの労働をしなくてはなりません。



## 2) 世界の子ども写真でワーク ②地雷の被害 (パキスタン)

パキスタンで地雷の被害にあい、足を失ってしまった男の子です。おもちゃにするため息子に渡した物は、地雷でした。

この写真の様に、世界には罪のない人々が国同士の争い巻き込まれてしまい、自由を奪われてしまっています。もし、私がこの子だったらと考えて、その人の気持ちになることで、恐ろしさや今の私たちの生活がどれだけ幸せな事か、平和の大切さを知ることによって自分の考えを深めることができました。



### ◎派遣中学生からのワンポイント報告

全国の色んな県の中学生や高校生と、意見を出し合いました。その時の男の子の気持ちや状況を発表し、考えを深めました。

## 3) 「身近な対立をなくすために」

このワークでは、日常生活での対立をなくすための予防策・解決策を考え、どうすれば喧嘩にならずにすんだのか、意見交換をしました。



初めて体験したワークショップでは、とても貴重な体験をしました。戦争は、国と国との喧嘩です。それをA、B、Cさんの短い劇をもとに、喧嘩の予防策や解決策を考え、共有をしました。一人一人違った考えや視点からしっかりと参加することが出来ました。最後は自分で考えた予防策をハトに託すことができました。



### ◎派遣中学生からのワンポイント報告

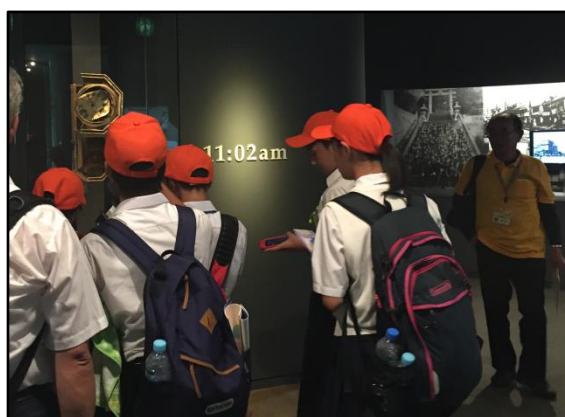
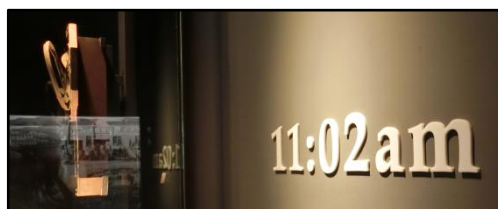
このワークで大切なところは、一つの視点からだけでなくそれぞれの立場に立って気持ちを考えていくことです。



「国立長崎原爆死没者追悼祈念館」、  
「原爆資料館」の見学（A班）



見学の様子



私たちが長崎原爆資料館で一番印象に残ったのは、11時2分を指して止まった柱時計です。爆心地から約800mの山王神社の近くの民家にあったものですが、原爆による爆風と熱線で損傷し、時計の針は爆発の時刻 11時2分を示したまま止まっていました。約800mも離れている場所なのに、損傷してしまっていることから、どれだけ原爆が強い威力だったかを物語っていると感ずることができました。



我孫子中学校  
原 直輝さん

原爆資料館は 2 日目で疑問であることなどを考えて参加することが出来ました。その中で印象に残ったことは、長崎に投下した理由です。ガイドさんによると、工場が密集している地帯や日本に古くからある建造物に投下する事で原爆の威力や日本人のやる気をなくさせるのが目的という理由が印象的でした。



布佐中学校  
石嶋 心愛さん



湖北台中学校  
松下 大希さん

「国立長崎原爆死没者追悼祈念館」、  
「原爆資料館」の見学（B班）



▲見学の様子

当時の建物や、映像、写真についてガイドさんの詳しい説明を聞きながら見学しました。中でも焼き場に立つ少年と熱線で顔の皮膚が焼けた人の写真が当時の悲惨さを表していたので、とても印象に残っています。追悼祈念館では、被爆者の方の手記の朗読をさせていただいて、被爆直後の被爆者の方の気持ちや状況を詳しく理解することが出来ました。展示物全てが、当時の被害の様子を伝えていて、とても勉強になりました。



久寺家中学校 派遣団 副団長  
齊藤 寛人さん 布佐中学校  
藤野 浩明さん



白山中学校 我孫子中学校  
高城 華織さん 額賀 美羽さん

生々しい写真が印象的だった原爆資料館でした。見るのが怖かったです。ガラスが刺さった服などがあり、当時の様子が、伝わってきました。核兵器は恐ろしい物なのに、世界にはまだ、たくさんあります。

◎派遣中学生からのワンポイント報告

原爆資料館は、暗い展示スペースと、異様な雰囲気によって圧倒されました。生々しい写真や、実際に被爆された方の服があり、当時の様子が肌で感じられました。私達の感想は、「怖い」という共通点がありました。今の私達の生活は、とても平和であり、幸せだと思います。自分ができることを、精一杯やっています。



「国立長崎原爆死没者追悼祈念館」、  
「原爆資料館」の見学（B班）



▲見学の様子

当時の建物や、映像、写真についてガイドさんの詳しい説明を聞きながら見学しました。中でも焼き場に立つ少年と熱線で顔の皮膚が焼けただれた人の写真が当時の悲惨さを表していたので、とても印象に残っています。追悼祈念館では、被爆者の方の手記の朗読をさせていただいて、被爆直後の被爆者の方の気持ちや状況を詳しく理解することが出来ました。展示物全てが、当時の被害の様子を伝えていて、とても勉強になりました。



久寺家中学校 派遣団 副団長  
齊藤 寛人さん  
布佐中学校  
藤野 浩明さん



白山中学校  
高城 華織さん  
我孫子中学校  
額賀 美羽さん

生々しい写真が印象的だった原爆資料館でした。見るのが怖かったです。ガラスが刺さった服などがあり、当時の様子が、伝わってきました。核兵器は恐ろしい物なのに、世界にはまだ、たくさんあります。

◎派遣中学生からのワンポイント報告

原爆資料館は、暗い展示スペースと、異様な雰囲気によって圧倒されました。生々しい写真や、実際に被爆された方の服があり、当時の様子が肌で感じられました。私達の感想は、「怖い」という共通点がありました。今の私達の生活は、とても平和であり、幸せだと思います。自分ができることを、精一杯やっています。

|  |             |  |
|--|-------------|--|
|  | 「稲佐山の夜景」の見学 |  |
|--|-------------|--|



湖北台中学校

松下 大希さん



久寺家中学校

齊藤 寛人さん

私達が稲佐山の夜景を見学して思ったことは、原爆が投下されてから71年間で、様々な人の努力で、ここまで復興したのは、すごいことだということです。原爆投下直後写真と、今の景色を見比べるとかつて焼け野原だった場所に、ビルなどの建物が建っていて、当時の人の苦勞が伝わってきました。

**第3日目**

|  |                     |  |
|--|---------------------|--|
|  | 「グラバー園」散策、「大浦天主堂」見学 |  |
|--|---------------------|--|



世界遺産に登録されそうな教会群の1つ、大浦天主堂と、グラバー園に行きました。大浦天主堂はステンドグラスの館内がきれいでした。グラバー園は、素敵な庭園や世界遺産であるグラバー邸が印象的でした。



## 長崎派遣中学生 平和宣言

「平和の集い」で派遣中学生が、それぞれの言葉で宣言した内容をそのまま掲載しています。



### 私たちの平和宣言



我孫子中学校



我孫子中学校  
額賀 美羽さん

私たちは長崎派遣を通して、戦争や原爆の恐ろしさを知り、核兵器廃絶の大切さと平和への願いが一層深まりました。長崎派遣への参加を通して長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列した時、長崎市の田上市長が、平和宣言の中で、「英知」という言葉を何度も使っていました。「英知」とは優れた知識という意味です。しかし、私達はこの「英知」は、「想像する力」ではないかと考えました。原爆が落ちた時の様子、戦時中の生活、当時の人々はどれだけ辛く、苦しい思いをしてきたのでしょうか。私達にはわかりません。しかし、その当時の様子を想像することが、少しでも平和の大切さや、今の幸せな生活のありがたさを感じることができる一歩だと思います。

今でも世界各国には、たくさんの核兵器があります。もし、また核兵器を使った戦争が起きたら世界はどうなってしまうのでしょうか。私達は想像し、それを食い止める「英知」を世界各国と話し、考えなくてはならないと思います。

核兵器の惨劇の事実を知り、二度と繰り返してはならないと心から思いました。私達は平和な世の中をつくっていくためにできる、一番の近道は、「伝える」ということです。私達は長崎で学んできたことを、今後に活かし、現在の平和を心から大切に思い、この経験を友達やたくさんの人に伝えていきたいと思っています。



我孫子中学校  
原 直輝さん



## 私たちの平和宣言



湖北中学校



派遣団 団長  
湖北中学校  
早坂 弘宇さん

私たちは、長崎派遣を通して、今の生活がどれほど平和で、またどれほど幸せなのかを改めて感じることができました。今回の長崎派遣で平和祈念式典や原爆資料館の見学をし、被爆者の方々の気持ちや戦争の悲惨さ、そして平和への願いを感じるようになりました。しかし、現在、SNSなどが発達し、悪口などの書き込みにより、いじめ問題などに発展してしまうケースがあります。さらに、投稿した本人もが追いつめられてしまいます。こういった小さな事がどんどん大きくなって平和が少なくなり、戦争につながってしまうと思います。こういったことをなくすために、小さな平和、今ある平和を大切に、広げていくことが必要だと思います。



今なお、戦争や紛争により、苦しんでいる人がたくさんいる中で、世界にはまだたくさんの原子爆弾が存在し、新たな爆弾も開発されています。71年前のような大きな戦争が繰り返されてしまうと、もっとたくさんの尊い命が奪われてしまいます。71年前の悲劇を繰り返さないためにも、私達は長崎派遣で学んだことを活かして、学校生活や身近なところから、平和を広げていき、我孫子市で開催されている「平和の集い」や普段の生活の中で多くの人に戦争・原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さを伝えていくことが、今、私達にできる平和への第一歩だと思います。



湖北中学校  
松澤 玲奈さん





## 私たちの平和宣言



布佐中学校



私達は、長崎派遣を通して本当の戦争の恐ろしさを感じました。71年前、長崎・広島に原子爆弾が投下され、コンクリートの柵が傾くほどの爆風が、街や人々を襲いました。人々の命はちりのように散っていきました。

「お国のために」と教え込まれてきた学徒動員生は精神が狂い、理性を失いました。私達と同じくらいの人たちが、国のためにと体を張っていると思うと、言葉に表せないくらい残酷な世界が広がっていたんだ、と知りました。

長崎の3日間では、目をそむけたくくなるような資料や写真がたくさんありましたが、今私達がこの過去に目をそむければ、絶対に後世に伝えることが出来ないと本当に思いました。

今の若い世代では、原爆がいつ何時に広島と長崎に投下されたのかなど、基本的なことを知らない人がたくさんいます。

この出来事を忘れてしまえば、また戦争を行う日が来るかもしれないのです。しかし、すでにそうなりつつあります。



布佐中学校  
石嶋 心愛さん

私達の役割は、長崎で学んできたこと、感じてきたことを伝え、一人でも多くの人に71年前の惨状について知り、二度と繰り返さない世の中を作っていくことです。今の日本はだんだんと戦争が起こる日本に近づいていってしまっていると思います。南スーダンのPKOや集団的自衛権の問題などがあります。71年前のあの原爆のことを正しく知れば、絶対に起こさないとします。そのため、これからの世界を担う私達、若い世代全員が正しく知り、原爆・戦争・争いのない世界を創る必要があります。今の状況からその世界を創ることは容易ではありません。しかし、真の平和な世界は絶対に作れます。唯一の被爆国である日本が、核廃絶を先頭に立って導かなければなりません。そのために、私達が核廃絶・平和の尊さを伝え、みなさんを引っ張っていきたくと思います。共に、平和な日本、平和な世界を創っていきましょう。



派遣団 副団長  
布佐中学校  
藤野 浩明さん



## 私たちの平和宣言



湖北台中学校



湖北台中学校  
中村 咲希さん

私達が、長崎派遣を通して一番感じた事は、これ以上原爆や核兵器・核実験などで1人でも命が失われることのない世界を目指したいという気持ちでした。長崎で原子爆弾落下中心地を訪れた時、71年前の8月9日11時2分、この場所に原爆が落とされ、本当にたくさんの命が失われたと思うと、言葉が出ませんでした。

2日目の平和祈念式典では、平和を強く願う人々の訴えや熱い思いが、とても伝わってきました。被爆された方々の平均年齢も今年で80歳を超え、当時原爆を直接体験された方から、その経験を話していただくことも難しくなっていると感じました。

だからこそ、私達自身が平和の大切さや原爆の恐ろしさを、次の世代に伝えていかなければならないと、強く思いました。



平和学習では違う地域の人たちと世界の現状について、詳しく話し合い意見交換をしました。世界には日本と違い、しっかりした家には住めず、きれいな水も飲めないとても貧しい国があると知ることができました。食料を求め、紛争が起きていることも知りました。その兵器として、核が開発されているのです。

私達一人一人がその事実を知り、目をそむけずに世界唯一の被爆国の一人として核廃絶や平和の大切さをこれから伝えていきたいと思えます。戦争のない平和な社会の実現させるためにも、まずは身近な仲間から大切にします。



湖北台中学校  
松下 大希さん





## 私たちの平和宣言



### 久寺家中学校



久寺家中学校  
齊藤 寛人さん

「仲良くすることがいちばん！」私達が長崎派遣を通して思ったことです。

1945年8月9日11時2分、長崎市に原子爆弾ファットマンが投下されました。爆風や熱線の影響で、大勢の方が亡くなりました。そんな中を生き抜いた、永野悦子さんの話を聴いて、私達は「仲良くすることがいちばん」と思いました。

正直、今まで私達は一人一人の力では何も変えられないと思っていました。しかし、私達一人一人が、身近な人、学校の友達と仲良くし、その輪を広げていくことで世界中が仲良くなれると今は思っています。だから、私達一人一人が何も変えられないのではなく、私達一人一人が何か変えていけるのだということ伝えていきたいです。

今ある当たり前が、いつか、当たり前ではなくなり、原子爆弾が使われる日がやってくるかもしれません。だから原爆投下直後の被爆地の悲惨さを伝えていかなければなりません。

ですが、被爆者の方の平均年齢は80歳を超えました。そのため、被爆者の方の生の声を聴ける機会は少なくなってきています。だから、私達若い世代が輪を大きく、そして、未来まで広げ、できるだけたくさんの人に原爆の恐ろしさ、戦争の恐ろしさを伝え、戦争、そして核兵器のない世界へ少しでも近づける努力をしていかなければいけません。

身近な友人、学校の友人と仲良くすることが、平和への第一歩です。私達も少しでも近づけるよう、誰とでも仲良くし、平和の輪を広げていきます。



久寺家中学校  
佐口 未来さん



## 私たちの平和宣言



### 白山中学校



白山中学校  
白杉 快さん

私達は長崎への派遣で戦争や原爆の恐ろしさを改めて知ることができました。そこで感じた平和の大切さや、今生きているということの幸せを、自分達が確信して戦争体験者や被爆体験者がやってきた今の日本に、もっと世界平和を願う思いを広げていきたいと思えます。それこそが尊い命をたくさん失われた長崎の方々に対して私達ができる最大の事だと考えているからです。そこで、私達一人一人がやるべきこと、できることを考えてみました。人を思いやり、人を気遣い、そして人にやさしく接する、これらを私達は今後、守っていきます。私達は普段、たくさんの方々からいろいろしてもらい、そしてたくさんの方々からやさしくしてもらい生活ができています。

今の私達の生活は、とても充実していると思います。食事をし、学校に通い、勉強をし、部活をし、遊び、そして安心して夜寝る。当たり前のことかもしれませんが、今日本が戦争をしていれば、この当たり前のことができません。

71年前、日本は戦争をしていました。その当時、生きていた人々は生きることに必死でした。にもかかわらず、自分のことだけを考えるのではなく、人のことも気遣い、食べ物を分け合ったり寝ることを譲り合ったりしていたそうです。しかし、戦争をしていない今は、どうでしょうか。自分のことばかりを考えて、人が嫌がることをしたり、自分中心に物事を考えていることが、多いと思います。まずは、身近な家族や友達のことを思いやり、気遣い、そしてやさしく接する、これらを一人一人が守り、今ある平和なときを後世に残していきます。



白山中学校  
高城 華織さん